

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和2年度は限定的な活動となったが、令和3年度は、都中英研究の遠隔会議システムが整備され、オンラインによる本格的な活動を再開した。

## 1 例月の部会

4月より例月の部会をオンラインで10回実施し、研究活動を推進した。また、8月に「研究部ワークショップ」の運営準備、12月に研究冊子の校正作業、及び研究発表会用の Zoom webinar のトライアルのために、ハイフレックスによる部会を2回実施した。

## 2 研究部ワークショップ

2年振りに実施した「研究部ワークショップ」は、8月3日・5日の2日間にオンラインで実施した。感染拡大により研修機会が少なくなった現状もあり、受付開始1週間で各日70名の受講者定員がいっぱいとなった。

内容は、やりとりの指導、リテリング指導、帯活動、チャットとディベートの指導、5ラウンドの指導、タブレットPCの活用などをテーマに、6名の研究部員が実践発表を行った。ZoomのBreakoutセッションで参加者同士の意見交換の場を設けた。オンラインによる運営の難しさが課題となった。

## 3 研究内容：テーマ「研究部中学校推奨語い 1800語・研究部小学校推奨語い 700語」

学習指導要領(平成29年公示)が、中学校は令和3年、小学校では令和2年に全面施行された。中学校で扱う単語数が1600～1800語、小学校では600～700語となった。語数が圧倒的に増えた中で、小学校や中学校の授業で確実に定着させておきたい語彙を確認することで、教師が語い指導において指導の軽重を判断し、効果的に指導する助けとしたいと考え、語いリストの作成に取り組んだ。

研究内容としては、中学校6種類(18冊)、小学校7種類(14冊)の教科書で扱われている語彙を調査し、①各教科書で使われている単語数。②各単語が何種類の教科書で扱われているか(=重なり度数)を調査した。重なり度数上位の、中学校約1800語、小学校約700語をリスト化して、さらに品詞別に分類し、「研究部推奨語い」とした。また、令和元年度に研究部で作成した「研究部基本語い 1200」、および「新 JACET800 中学語彙リスト」「CEFR-J(A1レベル)語彙リスト」「Oxford3000」など、外部機関が作成した語彙リストとも比較検討した。

## 4 研究発表会・研究冊子「語いと英語教育(44)」発行

研究テーマに基づき、研究冊子「語いと英語教育(44)」を2月21日発行し、都中英研のウェブサイトに掲載するとともに、研究発表会の当日参加者に電子メールで配布した。そして同日、2年振りの「研究部研究発表会」を Zoom webinar を使いオンラインで実施した。研究部から上記テーマに基づく、1年間の研究内容について発表した。指導・助言者として、日基滋之先生(玉川大学教授)に研究内容について指導・助言をいただくとともに、「コミュニケーション活動に必要な phrase list の構築—活動後の振り返りと授業へのフィードバック」をテーマに講演をしていただいた。当日の参加者は約70名であった。